

マンガで  
読む  
ナガサキ  
②



Nia Memoro

マンガで  
読む  
ナガサキ  
②



Nia Memoro

# マンガで読むナガサキ2

## 目次

### マンガ

蓮の花(マルモトイツミ)	3
長い夏(奈華よしこ)	13
母のロザリオ(マルモトイツミ・フジヤマヒロノブ)	37

### 豆ちしき

長崎港の潮位	11
強制疎開	35
かげ膳	35
玉音放送	35
山里国民学校	61
救援列車2	61

### コラム

交通船	12
原子爆弾2	36
如己堂・長崎市立永井隆記念館	62
浦上天主堂(浦上教会)	64
あとがき	66
ニアメモーロの紹介	68

# 蓮<sup>はす</sup> の 花

森幸男さんによる後日談  
もり ゆきお

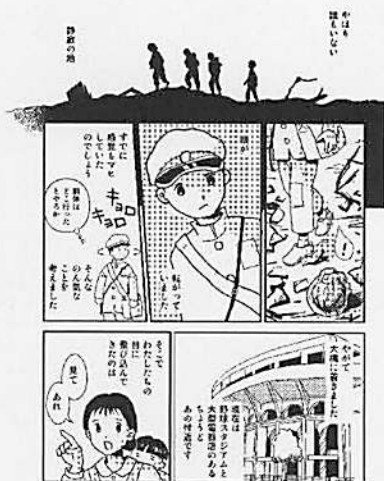
.....

作 画  
マルモトイツミ

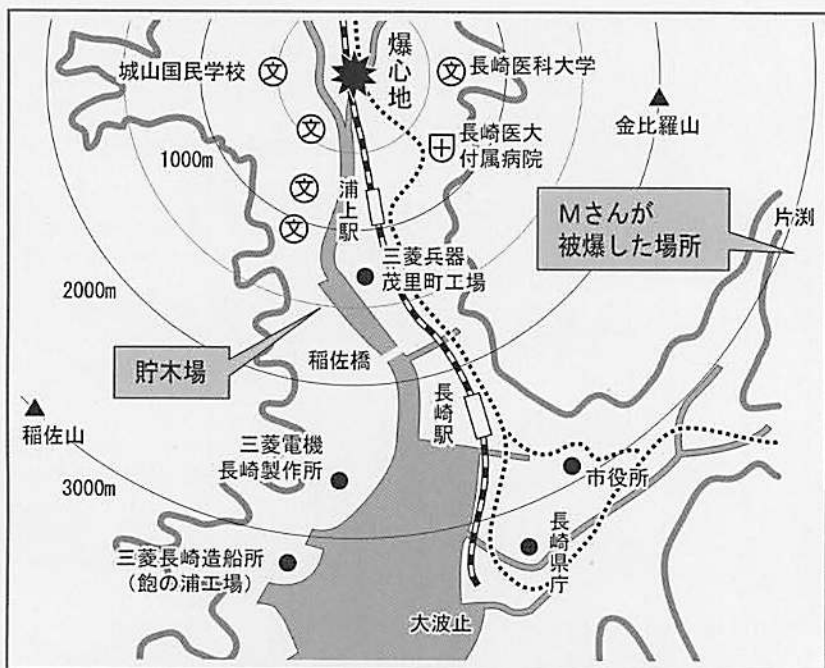
森幸男さんは、原爆投下の翌日、浦上川沿いを歩き、被爆の惨状を目の当たりにしました。そのときの様子は1巻目の「マンガで読むナガサキ(タイピントギャラリー発行)」に、くわしく収められています。

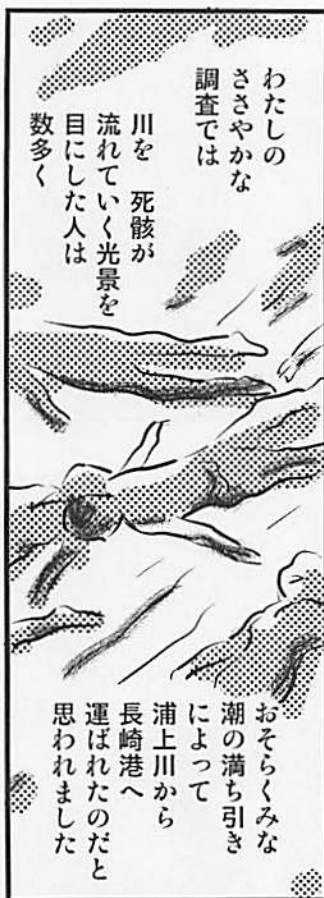
この後日談「蓮の花」は、森さんが原爆の語り部活動を始めようとしていたころ、知人の男性より聞いたお話です。家族にも語られていなかったということですから、おそらくこの事を聞いたのは、森さんひとりで、その森さんも、いまは亡くなられています。

この貴重な証言を、記録として残すことができたのが、本当に幸いです。



「水を求める」より







8月9日の  
11時2分には  
片瀬付近におり

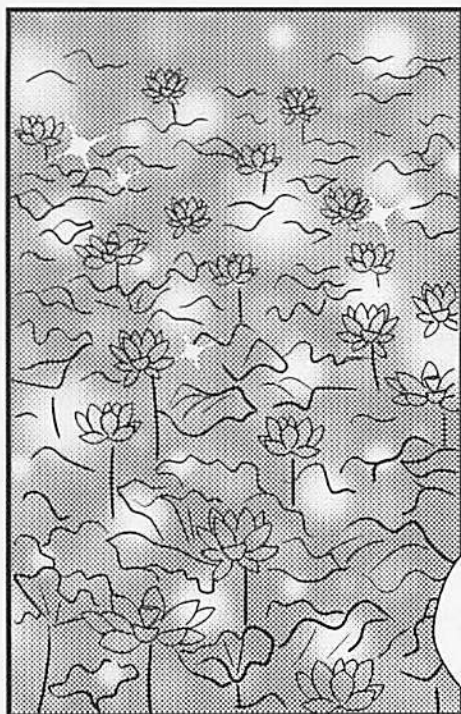


そこへ  
三菱の本社から  
指示が来た  
そうです



変わり果てた  
長崎の街を  
横切るように  
進んで

やつのことで  
浦上川沿いにある  
貯木場に  
着きました



あれ？



あがんとこに  
あがんとか  
蓮池の  
あったつけ…



ぼんやり  
そう思った  
そうです

おいM田  
はよう

はよう来て  
手伝うて  
くれろー



あわてて  
近づきながら  
よくよく  
見ると

はっ  
はい……

それは  
蓮池では  
ありません  
でした





すべて  
人の死体  
だったのです

潮に流されて  
しまわないよう  
手を縛られ  
つながれた――



蓮の花は  
極楽浄土に  
咲く花だと  
されています

だけど  
そのとき



M田さんの  
目の前に  
広がっていたのは  
まぎれもなく  
地獄の風景でした

M田さんたちは  
その後  
何日も何日も  
かけて



川から流れてくる  
人々を 止めては  
引き上げ  
茶毘にしたそうです

この話を  
聞かせて  
くれて  
まもなく



M田さんは  
この世を  
去りました

ご遺族に  
その話をすると

知らんやった  
そがん話  
じいちゃんから  
聞いたことも  
なか：



M田さんは  
本当はきつと  
この話を  
お墓まで  
持っていく  
つもりだった  
のでしょう

その後の  
調べで  
貯木場は  
淵神社の  
すぐ近く



現在は  
埋め立てられ  
野球場に  
なっている  
場所だと  
わかりました

長崎の街には  
きつと

このように  
誰にも知られず  
葬り去られていく  
惨禍の記憶が

まだまだ  
たくさん  
あるでしょう

まだまだ  
たくさん……

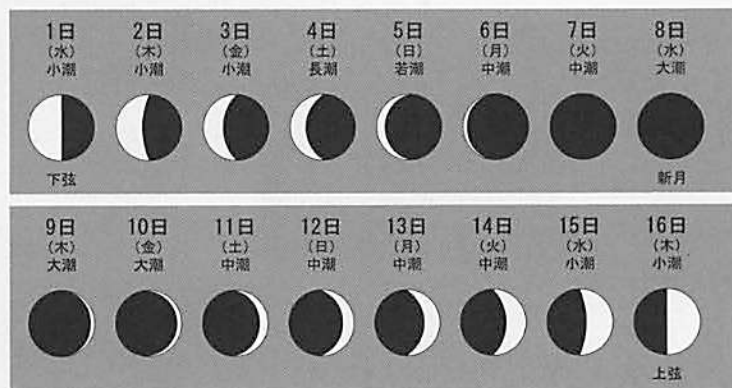
## 長崎港の潮位【ながさきこうのちょうい】

森幸男さんが、数年前この話を聞いて、行政機関に問い合わせたところ「1945年の潮位のデータは、当時は軍事機密だったので、明らかにされていません」という返事だったそうです。

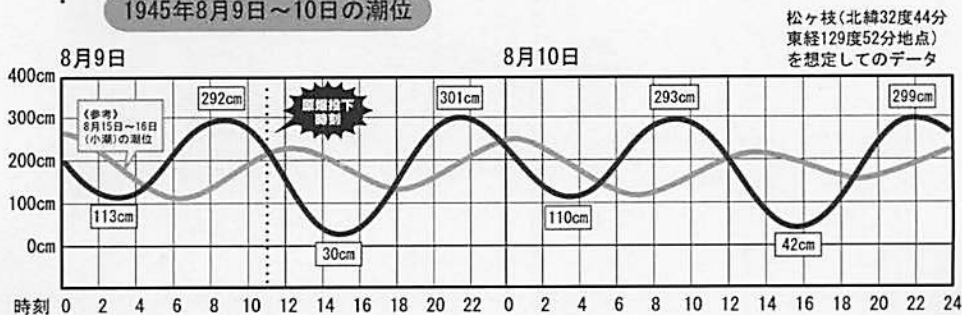
しかし今回、コンピュータを使い、当時の月齢と潮位を計算、推測することができました。1945年8月9日は新月の翌日。ちょうど大潮の時期にあたります。

これまでに、数人のかたから「その日は大潮だった」という話を聞いていましたが、それらの証言も裏づけされたことになりました。

### 1945年8月前半の月齢



### 1945年8月9日～10日の潮位



これらの図は、webページ「こよみのページ(<http://koyomi8.com/>)」を使い、計算したものを元に制作しました。数値などは、あくまでも計算上のもので、実際とは異なる場合もあります。

# 交通船

「こうつうせん」

.....

むかしは、道路が整備されていなかったで、人々のおもな交通手段は、長崎港内を渡る船でした。明治時代に、いくつかの民間会社が交通船を運航させ、1924年(大正13年)には市営の交通船も就航しました。むかしの長崎港は、船の往来で大にぎわいだったのです。

船体は、前後どちらを船首にしても進むことができたので、港内のたくさん

の棧橋を往復するのに、とても便利でした。前後に2つエンジンを持っているものもありました。また、昭和20年4月の空襲では、交通船のひとつが被害に遭い、70人余りの犠牲者を出すという悲劇にまわられたこともあったそうです。

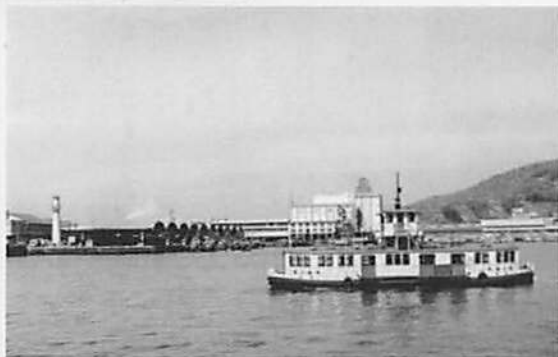


写真提供・森田信之さん

戦前戦後と、市民の重要な足になった長崎港内の交通船ですが、やがて道路が整備され、バスが普及したことでお客が減っていき、とうとう1969年(昭和44)

年に、廃止になりました。いま、旭町に「旭町棧橋前」というバス停がありますが、これは、交通船がまだ活躍していたころの名残りです。

また、三菱重工長崎造船所も出退勤用に、従業員専用の社船を出していました。現在でも、大波止～香焼間の社船は活用されています。車で行くと30～40分かかる道を、船だと10分ぐらいたということ。



# 長い夏

山口小夜子さん

やまぐち さよこ

(仮名・当時21歳)の体験

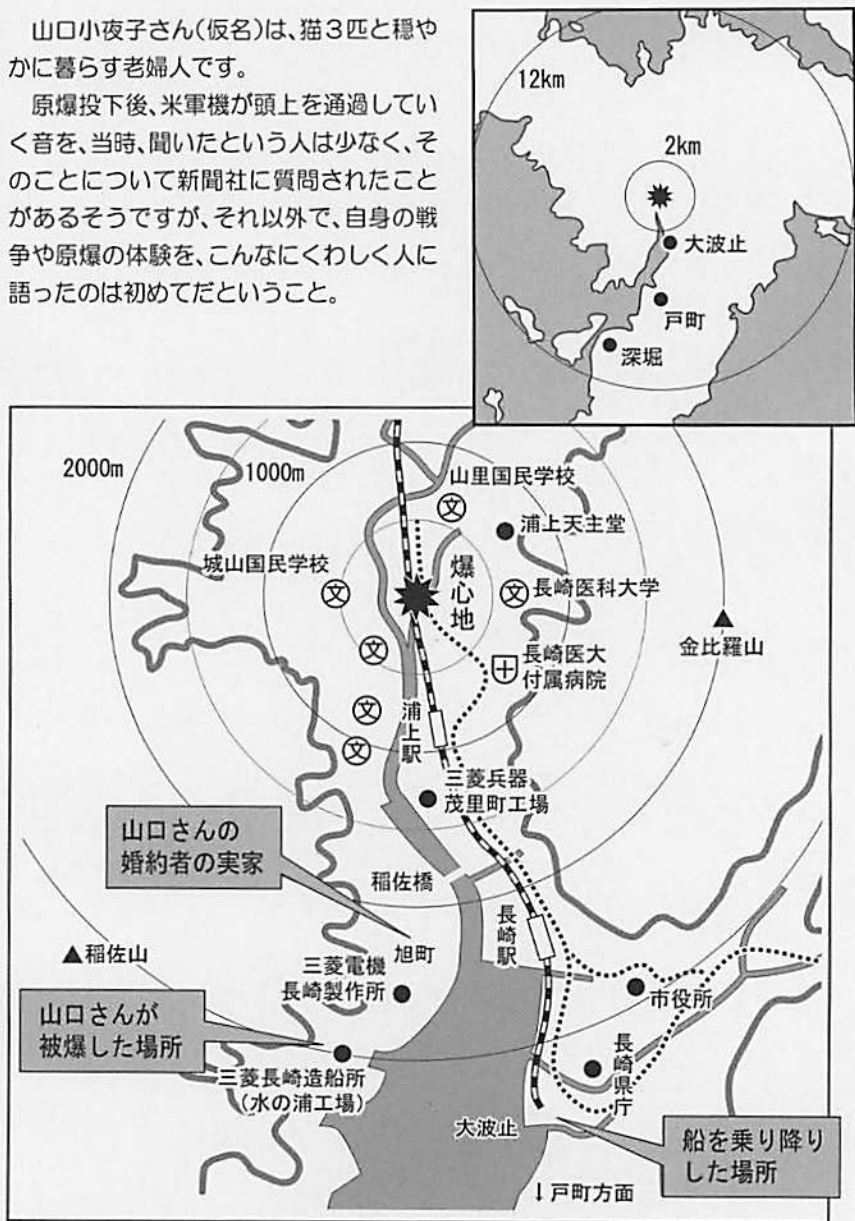
作画

奈華よしこ



山口小夜子さん(仮名)は、猫3匹と穏やかに暮らす老婦人です。

原爆投下後、米軍機が頭上を通過していく音を、当時、聞いたという人は少なく、そのことについて新聞社に質問されたことがあるそうですが、それ以外で、自身の戦争や原爆の体験を、こんなにくわしく人に語ったのは初めてだということ。





# 長い夏

わたしたち一家は  
強制疎開で深堀に移り住み  
わたしは 交通船で  
水の浦の三菱工場まで  
働きに出ていました  
当時21歳だったわたしには  
婚約者がおりましたが  
彼は 数度目の召集で  
宮崎の駐屯地へ行き  
家族が旭町に残っていました

山口小夜子さん(仮名) 当時21歳の体験

昭和20年8月9日  
わたしは 勤め先近くの  
工場が 8月1日に  
爆撃を受けたため  
(※50機あまりの爆撃機が  
三菱造船所、三菱製鋼所、  
長崎医大などを攻撃  
死傷者、行方不明者3百人以上)  
そのあとかたづけに  
呼ばれ 働いておりました





昭和20年8月9日  
午前11時2分  
長崎に原爆投下





気がつくと  
目の前は  
ガレキの山と化し  
多くの仲間が  
倒れていました



なに…  
いったい  
なにが  
おきたと!?



さいわい  
わたしに  
大きい外傷は  
ありませんでした

…しかし  
ついさっきまで  
となりにいた  
同僚は  
みつけれず…

ゆ…り  
ゆりこ  
さん…?

よろ?



火ぶくれになった  
同僚たちを  
目の前にしながら  
あまりの衝撃に  
まるで  
スクリーンのむこうの  
できごとのように  
ただ呆然と  
するだけでした。

…さん

…山口さん







そうだ  
家族は……  
おかあさんや  
おばあちゃん  
たちは  
大丈夫やろか？




あげなものの  
今まで  
みたこともなか

はやる気持ちと  
うらはらに  
船が ひどく  
のろく思えました


新型爆弾  
かね






大波止で  
降りて  
戸町の峠  
あたりまで  
来たときです

飛行機の  
爆音！



また  
空襲？

あんた  
その防空壕  
に入って！



また  
米軍やろか

しっ  
耳ふさいで  
口あけて

なんで  
なんで  
いつまで  
こんな目に  
あわんばと

あんなことが  
起きたあとの  
飛行機の音は  
生きたこちが  
しませんでした

はやく  
はやく  
はやく  
遠くへ  
行って！

暗く  
なつとるけど  
ちゃんと  
帰れるね？

はい  
かえって  
その方が  
飛行機の的に  
ならんで  
安心かけん

はいじゃ  
気いつけてね

ホクホク

必死の思いで  
深堀の我が家に  
たどり着いた  
時は  
夜中の12時を  
まわっていました

おかあさん  
おじいちゃん  
おばあちゃん

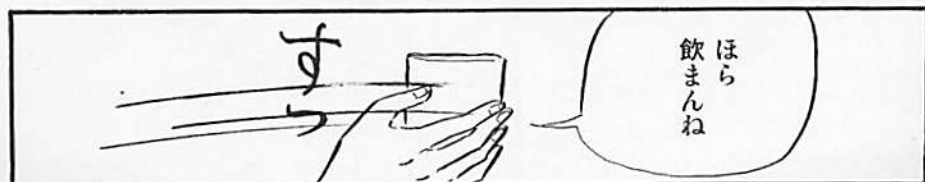
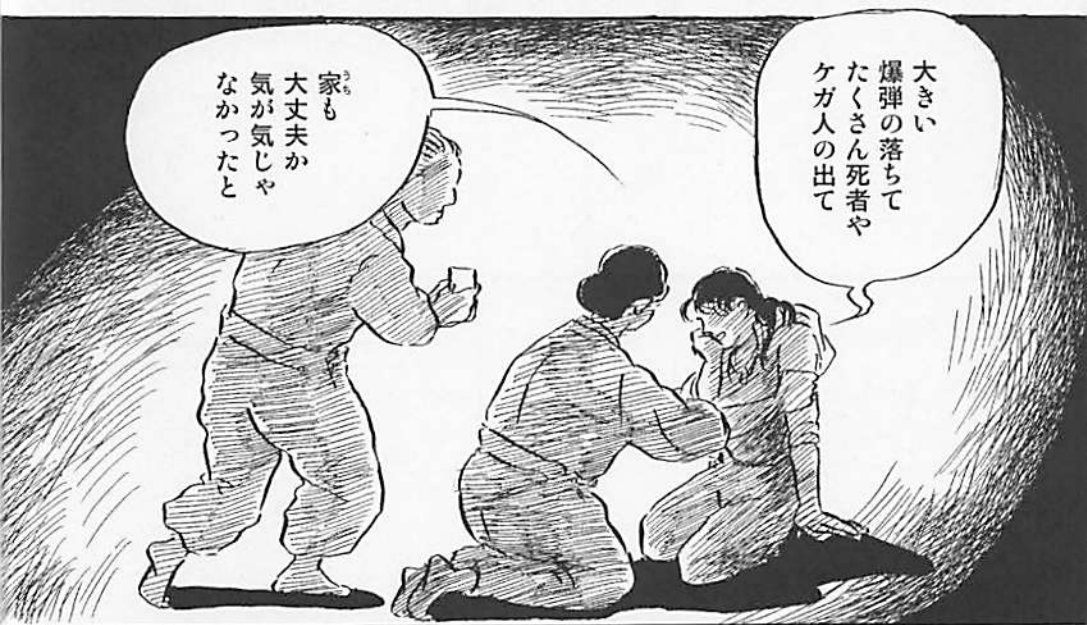
小夜子

小夜子の  
帰って  
きたばい

小夜

……よかった  
みんな  
生きとる

へたっ

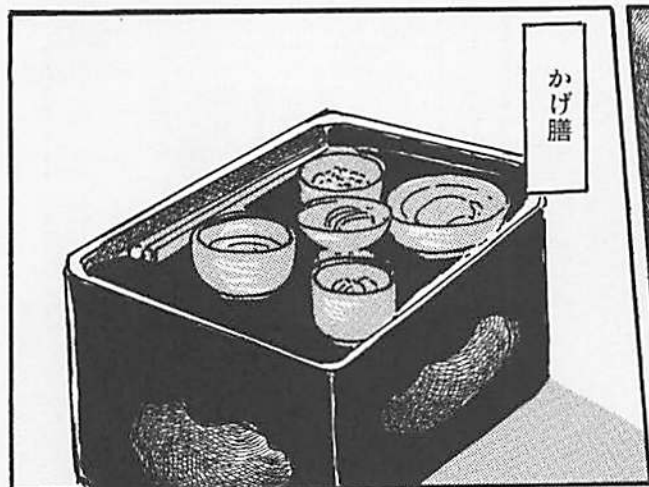






家に  
たどり着くまで  
食べ物はおろか  
水一滴さえ  
口にしないまま  
だったのに  
「喉が渇く」という  
感覚さえ  
なくしていたことに  
はじめて  
気づきました





我が家は、父は  
早くに亡くなり  
祖父、祖母  
母：そして  
マサルという弟が  
いたのですが  
18歳の時  
志願して中国に  
渡ったまま  
消息は知れない  
ままでした

もともといた  
旧下筑後町  
(いまの福済寺付近)は  
原爆で  
焼け野原になり  
強制疎開が  
なかったら  
家族は  
ひとたまりも  
なかったでしょう  
皮肉なものです

翌日も  
その翌日も  
恐くて 工場に  
行く気になれず  
わたしは  
休んだままでした

それ  
ほんとですか？

ああ  
新型爆弾で  
焼け野原い  
うはなしじゃ

浦上地区は  
なんでも  
壊滅らしいよ

草木も焼けて  
残つとらんそうや





勝信さんとは  
大丈夫やらか？

彼の家族の住む  
旭町は  
わたしがいた  
飽の浦工場より  
ずっと  
浦上寄りに  
あるのです



彼が留守のときに  
彼の家族に  
もしものことが  
あったら！

わたしが  
ついていくけん  
様子ば  
みてこんね

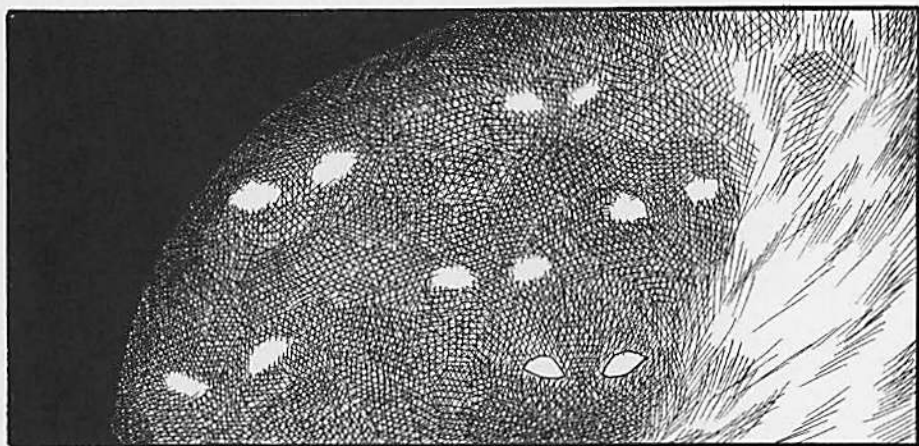
勝信さんにも  
知らせて  
あげんとね

おかあさん



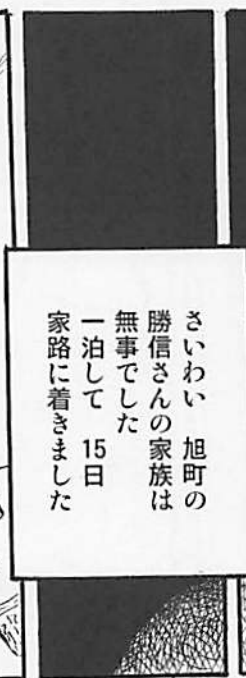
14日  
深堀の  
亀ヶ崎から  
母と船に乗り  
大波止で降りると  
旭町まで  
歩いて  
むかいました

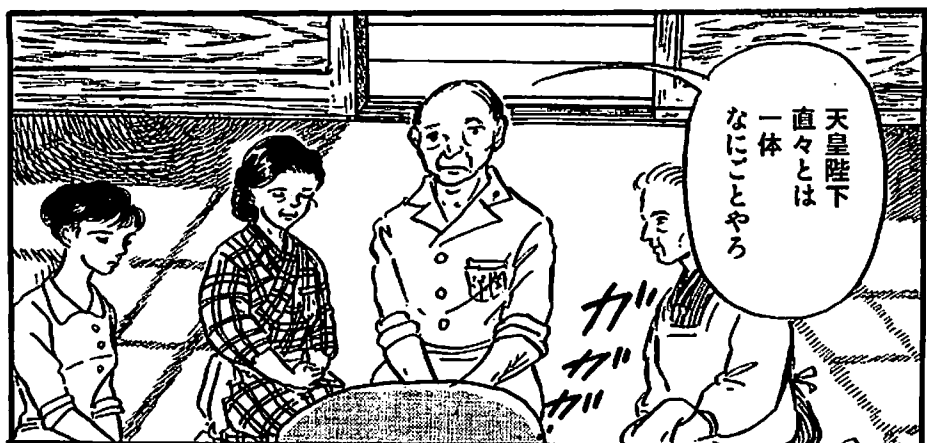
稲佐橋界わい  
まで来た  
ときでした



浦上川ばたの  
防空壕に  
被爆して  
動けない人々が  
収容されて  
いたのです







終戦になったあと  
しばらくして  
婚約者も長崎に  
戻ってきて

わたしたちは  
所帯を持ち  
子ども生まれ  
なんとかやってきました

志願して出兵し  
行方不明のままの弟  
何度も召集され  
生死のふちを  
生きてきた夫

しかし 弟マサルは  
とうとう消息不明のまま  
昭和30年  
「戦死」として届けを  
出してもらったのです



そして  
あの原爆投下  
いったい  
あの戦争は  
何だったのでしょうか

稲佐橋の辺りにいた  
あの人たちは  
あれから  
どうなったのでしょうか

何もしてやれなかったことが  
悔やまれてなりません  
もう あんな酷い戦争は  
二度と あつて欲しくありません



【おわり】



## 強制疎開【きょうせいそかい】

空襲や火災の被害を少なくするため、防火地帯を作り、その範囲内にある建物を取りこわすことを「建物疎開」「家屋疎開」といいます。行政機関が取りこわす場所を強制的に選んだので「強制疎開」とも呼ばれました。家を壊された人はそれぞれつてをたどって、住む場所を探さなければなりません。

本土決戦に備えるためという名目によって、人口2万人以上の都市で行われ、全国で約61万戸の建物が取りこわされたといわれています。



建物は人の手で取りこわされました

## かげ膳【かげぜん】

「かげ膳(かげぜん)」は、安全祈願のおまじないです。むかしの旅は現代とちがって大変でしたので、旅人が病氣や怪我をしないように、ちゃんと帰って家族といっしょにごはんが食べられるようにと、留守番の人が祈りながら、旅をしている人の分まで食事を用意していました。

太平洋戦争当時、兵士が出征するときは、女の人が大勢で縫った「千人針(せんになはり)」という布や、寄せ書きをした日章旗を兵士に贈りました。そして兵士は、それをお守りとして身につけ、出征していきました。

残された家族は、かげ膳を供え、兵士の無事を祈りました。

## 玉音放送【ぎょくおんほうそう】

1945年(昭和20年)8月15日正午に、昭和天皇がみずから終戦を国民に伝えたらジオ放送です。「玉音」は「天皇の声」という意味で、正式には「終戦の詔勅(しゅうせんのしょうちやく)」といいます。

天皇が詔書(大東亜戦争終結ノ詔書)を朗読、それをレコードに録音したものが放送されました。天皇の声が公式に電波に乗ったのは、歴史上初めてのことでした。原文は難解ですが、インターネットにはわかりやすく訳したものがたくさん載っていますので、興味のある人は探してみてもいいかもしれません。

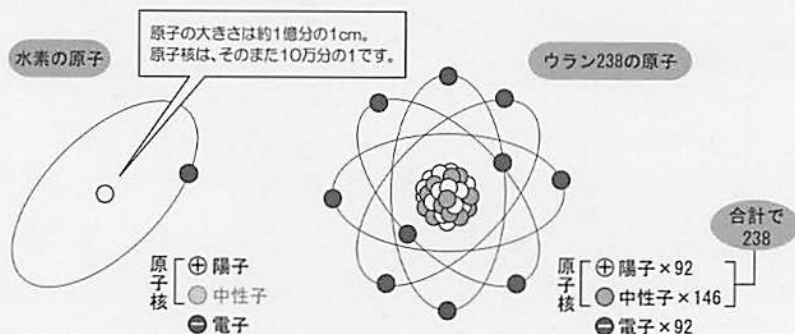


# 原子爆弾 2

世の中の物質はすべて原子で出来ています。「原子」はもともと「これ以上分けられない粒」というギリシャの言葉です。大きさは1億分の1cm。原子がメロンのサイズとすると、実際のメロンは、なんと地球の大きさです。

しかし現在は、原子はもっと小さく分けられることがわかりました。「陽子(+)」と「中性子」で作られた「原子核」、その周りの「電子(-)」です。さらには、それより小さな粒「クォーク」であることも、わかってきました。

ひとつの原子に存在する電子と陽子の数は同じで、物質の種類によって数が決まっています。原子番号1番の水素は、電子×1、陽子×1です。中には中性子の数がちがうものもあり、それらは「同位元素(アイソトープ)」と呼ばれます。同じ原子番号の原子のグループを「元素」といいます。



水素はいちばん軽い元素ですが、自然に存在する元素の中でもっとも陽子の数が多い、つまりもっとも重いのが、原子番号92番のウランです。

天然で産出されるウランの0.7%が、陽子×92と中性子×143の「ウラン235」。残りの99.3%が、陽子×92と中性子×146の「ウラン238」です。ウラン235を100%濃縮したのが、広島の実験爆弾です。

重い物質はそれだけで不安定です。ウラン235に中性子をぶつけると、核が割れて2〜3個の中性子が飛び出し、それが周りのウラン235に当たってまた……と核分裂がおこっていくことを、核分裂の連鎖反応といいます。

1945年8月6日、広島に投下されたウラン型原爆は、64kgのうち1%が10万分の1秒という高速で核分裂を起こしました。爆発というかたちで核のエネルギーが一気に放出された結果、広島では、約14万人の人々が犠牲になりました。



## Nia Memoro

「ニアメモーロ(nia memoro)」は、エスヘラント語で「私たちの記憶」という意味。1945年の原爆投下から長年が経過し、被爆の実相を伝えるにくなった時代に、被爆者の体験をマンガ化して、次世代の人々へ、よりいっそうの理解を求めるのが目的です。

定価(本体1000円+税)